

上越市 まちなか居住推進事業

【直江津地区】

ニューズレターVol.4

「まちなか居住推進事業」とは？

まちなかに“これからも住み続けたい”“新たに住んでみたい”“また訪れたい”と思う人が自然に集まるまちを目指す**新しいまちづくり**の取組です！

本紙やホームページを通じて事業の取組内容や進捗状況を定期的にお知らせしています。今回は、令和4年3月23日（水）に開催した「**モデル地区説明会**」の内容をお伝えします。

◆ モデル地区の3町内会（あけぼの、天王町、福永町）を対象に説明会を開催

【場所】学びの交流館

📖 説明内容

① まちなか居住推進事業について（上越市）

上越市では人口減少、少子高齢化が進む中でも持続可能な暮らしやすいまちを目指し、「まちなか居住推進事業」に取り組んでいます。

② まちなか居住の必要性和協働のまちづくりについて（まちづくりアドバイザー埴（らち）正浩）

待たなしの人口減少、少子高齢化に対応するために、まちなか居住が求められています。まちなか居住を実現するためには、地域と行政による「協働のまちづくり」が必要です。

③ まちの将来像と今後の進め方について（上越市）

1. 目指すまちの姿
2. モデル地区とは
3. 今後の予定



📝 主な質疑応答・ご意見

Q1

大人だけでなく、将来を担う子供たちにも将来のまちを考えてもらいたい

A モデル地区で行うワークショップとは別に、子供たちがまちのことを考え、地域に誇りや愛着を持てるようにしたい。教育委員会や小学校と相談して検討したい。

Q3

女性の視点を入れていくことが大切。生活に女性の視点は欠かせない

A 女性や子供の意見を聞くことは重要なこと。また、新たにまちなかに移り住んだ方にも、ぜひお話を伺いたい。

Q2

このままではワークショップを開いても住民が集まらないかもしれない

A 無理に参加するのではなく、次世代を担う人に参加してほしい。事情があって、他の町内に住んでいる人などにも声掛けをしていただきたい。

Q4

今日は若い世代にも声をかけて集まってもらった。他の町内から出席している人もいる。女性や子供、いろいろな立場の人から集まってもらい、ワークショップを進めたい

A 例えば、町内の女性や子供が集まるイベントに合わせて臨時のワークショップを開催するなど、各町内の事情に合わせて進めていく方法もある。

令和3年度は、①対象町内会への取組み説明から、⑤モデル地区説明会まで、完了しました。

令和4年5月頃から、**モデル地区3町内会の住民を対象にしたワークショップ**により、**まちなか居住の具
体案を検討**していく予定としています。

R3年度

① 対象町内会への
取組み説明

② 町内会長等ヒアリング

③ 地区全体で
まちづくり方針の
とりまとめ

④ 対象町内会への報告

⑤ モデル地区説明会

R4年度

⑥ モデル地区での検討

現在

⑦ モデル事業の決定

R5年度以降

⑧ モデル事業の実行
(予定)

ワークショップの概要（予定）

ワークショップは、各町内会において3回の開催を予定していますが、各町内会の進捗や事情に合わせ、進め方を工夫していきます。

第1回目のワークショップに向け、モデル地区の皆様は身近なところで困っていることや、その解決策について考えて来てください。モデル地区外の皆様もこの機会に、一緒に考えてみましょう。

ワークショップの日時や場所については、後日改めてご連絡します。

【令和4年5月頃】
第1回ワークショップ

- ① 町内で困っていることは？（問題点と課題の抽出）
- ② 困っていることの解決策は？（アイデア出し）

【令和4年6月頃】
第2回ワークショップ

- ① どういうまちにしていきたいですか？（将来像）
- ② どこで、どういうことができそうか？（具体策）

【令和4年7月頃】
第3回ワークショップ

- ① 現実的に、どこならできそうか？（モデル事業地の選定）
- ② 地域・民間事業者・行政はそれぞれ何ができそうか？（役割分担）

事務局からひとこと

令和4年3月23日（水）の説明会に参加いただいた皆様、ありがとうございました。

いただいた意見を踏まえ、第1回ワークショップに向けて準備を進めていきます。

「主な質疑応答・ご意見」にあったとおり、まちづくりには様々な立場の人の参画が求められています。当日欠席されたモデル地区の町内関係者の皆様のご参加、お待ちしております。

引き続き、「協働のまちづくり」にご協力をお願いします。

地域と行政の

「協働のまちづくり」

を目指しています

